

国民民主党 東京都島しょ部政策委員

つくろう、
新しい答え。
国民 **みん**
民主党

伊藤しょう

考えたい、動きたい、
この島の仲間として。

島育ち
34歳

島の暮らしを、あきらめたくないから

私は伊豆大島、父島、八丈島で流れ育ち、島での豊かな原体験を胸に、25歳で三宅島に移住し起業しました。暮らしの中で、島の魅力と可能性を感じる一方で、物価高、交通の不便さ、産業の衰え、子どもの減少など、厳しい現実にも直面してきました。だからこそ、島の未来を真剣に考え、動いてきました。

人口が急減する時代に、「仕組み」から考え動く

1990年からの30年間で、東京の島じまでは人口が約8,000人減りました。この大きな流れは止められないのかもしれませんが、でもだからといって、島の暮らしをあきらめたくはありません。変わらなためこそ、変わり続ける勇気が必要だと思います。なりゆきに任せた未来では、あらゆるものが維持できなくなります。今こそ、対処的な方法だけではなく、制度や仕組みを根本から見直し、次の世代につなぐ準備に力を入れていく必要があると思い、声を上げることを決めました。

島だからこそ、できることがある

東京の島しょは、海に囲まれた独立した島じまです。だからこそ生まれた固有で豊かな自然と、自然と共に知恵を絞り生き抜いてきたからこそ生まれた独自の文化があります。どこかの真似ではなく、“島だからこそ”の魅力を磨き、誇りを高め、教育、文化承継、観光などあらゆる分野で活かしていきたい。都市・多摩・島しょが手を取り合い、東京都の本当の力になる——そんな未来を、皆さんと一緒につくりていきたいです。



島に暮らす皆さんの声を聞かせてください！

島に暮らす皆さんの声を集め、島の現在地の可視化を目指したいと思います。どなたも対象となりますので、ぜひご協力お願いいたします。



アンケートはコチラ

国民民主党代表 衆議院議員

玉木 雄一郎

伊藤 しょうさんは、

東京の島じまで育ち、東京の島じまの持続的な発展のために、熱意を持って事業や地域活動を続けてきました。彼の島に対する愛と行動力に期待しています。

伊藤しょうの考え（政策案抜粋）

まずは緊急的な生活を守る支援の充実を

まずは、「今苦しい」生活への緊急的な支援の充実を推進します。国民民主党として国政での手取りを増やす政策を推進しつつ、島しょの生活に直結するガソリン、輸送費、電気代等の高騰、などへの緊急的な生活支援の強化を目指し提案していきます。

さらに、

- 車両や室外機などの金属備品の塩害コスト
- 浄化槽の設置や点検にかかる費用
- 医療や進学準備などにかかる交通費や宿泊費

など島独自のコストを洗い出し、東京都と企業と共に対策を検討し提案していきます。



地域産業の振興

人口の急減により地域産業は衰退しており、これからさらに進んでいきます。選ばれる場所には、**地域の特性を活かした産業が重要**です。産業振興への投資も重点的に取り組みます。



- “島だからこそ”の産業の支援強化推進
- 創業や事業承継を民間・金融機関・行政で推進
- 東京島しょの連携した産業連携コミュニティの醸成
- 新設される東京都ファンドの有効活用提案
- スモール・コンセプション推進で公共施設の民間活用推進

日常に馴染む防災・減災

自然の恵みとも災害の脅威とも共にある島だからこそ、日々の暮らしに馴染む形で防災や減災への意識や備えを高めることが重要だと思います。



- 島ごとの災害リスクに合わせた災害備蓄の開発普及
- 防減災力を楽しく高めるアウトドアフェスの民間共同企画

人づくりは島づくり

島全体の人口減少は元より、内訳としての子どもたちの人口も減少しています。移住の促進だけでは消耗戦です。**島で育つ子どもたちへの投資無くして、未来はない**と思います。島で育つことがハンデキャップにならない、むしろ島で育つからこそ、現代社会を生き抜く上での力を身につけられるような教育環境への投資を提案していきます。

- 島しょの都立高校の独自性の磨き上げ
- 離島間留学の促進（民間事例を参考に）
- 離島留学の推進と寮や塾の基盤整備強化
- 大学生世代の中長期受け入れ体制整備
- 保育園の待機児童解消、認可外保育園の支援
- 都心部に島しょ出身者教育寮設置の検討
- 東京都内の公教育への島しょ実習の導入提案
- Uターンへの支援拡充を検討



伊藤しょうのプロフィール

1990年生まれ / 伊豆大島、父島、八丈島育ち / 三宅島在住

都立八丈高等学校卒業 / 東海大学体育学部卒業
一般社団法人アットアイランド代表理事
一般社団法人新島エリアマネジメント理事
三宅村消防団 団員
中高保健体育教諭免許 / 野外活動指導者
趣味は、お神輿 / 樹木の観察 / 逆立ち

4月、5月の2ヶ月間、
島しょ11島に訪問し
ご挨拶させていただきます。
お声を聴かせてください！



伊豆大島暮らし時代



新島でのシェアハウス開業



父島暮らし時代



伊豆大島でのシェアハウス開業



八丈島暮らし時代



三宅島での宿開業

シマの文脈を繋ぐ対話ラボ（伊藤しょう後援会事務所）

〒100-1212 東京都三宅島三宅村阿古2117-1（常時駐在はしていません）
070-4078-1951 / itosho.tokyoislands@gmail.com

詳細情報はコチラ
後援会・寄付も募集！

公式HP

